

# 大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：前田委員（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和2年9月7日（月）13：30～15：30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委員（部会長：志村 陽子）（副部会長：蛭子 明子）＜敬称略＞				
	宇田尻 浩司	遠藤 文夫	藤澤 成光	宮坂 貴子	栗田 修平
	生駒 友一	石塚 由江	金丸 正明	木村 直紀	北畠 拓也
	前田 斉				
	オブザーバー：武知 大輔（大森警察署）、岩下 龍矢（蒲田警察署）、 青山 誠（田園調布消防署）、 佐藤 渉（港特別支援学校）				
	区職員：和田 洋治（防災危機管理課普及担当係長） 山戸 健司（障害福祉課施設担当係長）				
事務局：宮崎 理恵、森崎 恵里、江川 奈保美 (障がい者総合サポートセンター)					
1 連絡・確認事項					
(1) 司会、書記の確認（司会：宇田尻委員、書記：前田委員）					
(2) 出席者の確認、オブザーバー参加者、配布資料の確認					
(3) 委員および各機関からの情報提供					
1) 「ぼうさいこくたい2020」（主催：防災推進国民大会2020実行委員会） 新型コロナウイルスの影響により、10月3日（土）オンラインで開催。					
2) おおたTSネットの拡大定例会 9月29日（火）に開催。子どもの意思決定支援をテーマ。					
3) 「自助から始まる、だれも取り残されない防災」（主催：一般財団法人EFC防災・介護・トイレのバリアフリー）の報告。9月2日（水）にオンラインで開催した。					
4) 「生きづらさ・ひきこもり支援の地域ネットワーク構築事業」（主催：おおた社会福祉士会）9月26日（土）の開催。					
5) その他					
・「うつを、とんで支える方へ」精神保健福祉講座 大田区蒲田地域健康課					
・「災害時のこころのケア」（都立中部総合精神保健福祉センター）パンフレット紹介					
2 前回の振り返り					
議事録・ご意見カード紹介。ワーキンググループについての質問など集約し、合わせて検討するため、今回からご意見カードの書式を変更したので、ご確認ください。					

### 3 議題

#### (1) 今年度のヘルプカード作成について

##### 1) ヘルプカードについて意見交換

- ・病院を利用する際に、ヘルプカードが役に立った。自身の身体状況が変わったため、ヘルプカードの内容を書き換えなくてはいけないと思っている。気軽に内容を変更できるような書式だと良い。写真の掲載は、自身にとってハードルが高い。
- ・カードへ情報を書く作業が大変。QRコードのように読み込むことで、情報が出てくる仕組みがあると良い。
- ・誰が見ても、すぐにわかる内容が良い。
- ・移動支援を利用している方は、ヘルプカードを身に着けていることが多い。家族の多くが利用に賛同している。しかし、一般的な認知はまだ低いと思う。ヘルプマークについてY o u T u b eで紹介されている動画があった。ヘルプカードの役割について発信できるツールがあると良い。
- ・ヘルプカードの中に個人情報を書いてあるため心配という意見を耳にする。ただ、ヘルプカードの中に個人情報を入れておくことが必要な人もいる。選択できるように「個人情報については、記載する情報の範囲は各自でご判断ください」などの説明文があると良い。

##### 2) 東京都のヘルプマークと大田区のヘルプカードについて意見交換

(事務局より)

- ・東京都の作成(配布)したヘルプマークと、大田区として平成23年に作成した「たすけてねカード」(後のヘルプカード)がある。東京都のヘルプマーク、当部会で作成したヘルプカードとの使い分けについても意見を伺いたい。

(意見交換)

- ・自身の子供はヘルプカードもヘルプマーク、両方持っている。ヘルプカードはカバンに着けているが、着用しているヘルプカードには「カバンの中を確認してください」と記載しており、カバンの中に詳細について記載しているヘルプカードをしまっている。所属している全国規模の会合で、各自治体のヘルプカードを展示した。その中で、当部会で作成したヘルプカードは好評だった。
- ・ある特別支援学校では、学校側で定期的にヘルプマークの着用を確認している。様々な学区があるため全ての生徒ではないが、大田区の生徒でヘルプカードを付けている人もいる。
- ・別の特別支援学校では、ヘルプマークやヘルプカードを付けている生徒はいるが、学校としての対応については不明なので、確認する。
- ・ヘルプカードのケースにヘルプマークをプリントしてはどうか。
- ・ヘルプマークとヘルプカード2つ持っている。ヘルプマークは認知度が高い、ヘルプカードは情報を細かく記載できるのが良いところ。
- ・ある通所施設では、必要に応じて使うように利用者家族へ説明している。内部障がいなど外見だけでは判断できない障がいのある人についてはヘルプカード、自分で自分のことをうまく伝えられない人には、ヘルプカードは有効になる。使う人によって分

けられると良い。

- ・消防署では救急搬送する際、ヘルプカードの情報があると助かる。使う人自身が判断するがいいのでは。
- ・ヘルプカード知らない署員がいるため、周知したい。
- ・ヘルプカード、ヘルプマーク共に知っていた。障害者手帳に入っているのを見たことがある。他区の人にヘルプカードの周知が出来る機会があると良い。
- ・ヘルプカードはリニューアルを続けて今の形になっている。それぞれが、必要な状況に合わせて内容を記載できると良い。写真については、消防署員から緊急時に本人確認するために有効となるとのアドバイスをもらい、掲載する欄を設けた経緯がある。また、ヘルプカードの項目が福祉避難所でチェックされる項目とリンク出来るのではないか、というコンセプトもある。

(2) ワーキンググループについて

- ・今年度は、「A：調査・研究」「B：自助・共助」「C：権利擁護」の3つのワーキンググループで課題検討する。随時、専門部会へ報告し、さらに検討内容の確認を行う予定。

(3) ワーキンググループ会議の今後の活動について

- ・各ワーキンググループで、日程および活動内容を確認する。

※次回の日程 【第4回防災・あんしん部会】

日時：令和2年10月21日（水）13:30～15:30

場所：障がい者総合サポートセンター A棟3階集会室